

2022 年度

# 事業計画

2022年3月31日

学校法人 上智学院

## はじめに

学校法人上智学院は、上智大学が創立100周年を迎えた2013年に将来構想「グランド・レイアウト2.0（2014年度～2023年度）」（以下GL2.0）を掲げ、教育研究環境の改善に努めて参りました。2019年度からは、これまでの実績と本学院の現状と課題を明確にした上でGL2.0を見直し策定した「グランド・レイアウト2.1（2019年度～2023年度）」（以下GL2.1）という新たな目標の下で、様々な計画を進めております。

このGL2.1およびそのアクションプランに基づき、GL2.1の4年目にあたる単年度計画として以下の通り2022年度事業計画を策定いたしましたので、ここに公表いたします。

新型コロナウイルス感染症の流行とそれにあわせて加速化したオンライン授業の展開に関しては、各学校において一定以上の成果をあげることが叶いました。しかしながら今後更に激しさと速さが増すであろう社会の情勢変化に、これまでの知見や経験も活かしつつ対応していくことは、本学院の高等・中等各教育機関に課された責務です。この課題認識の下、2022年度はポストGL2.1としての次期中長期計画の準備も併せて進めて参ります。

### I. 事業計画（基本的方向性・姿勢）

持続可能な人類社会の発展と人間の尊厳を守るため、建学の理念に基づいてサステナビリティ推進を目指すことを全構成員が意識し、以下に定める分野別の事業計画においても、この方向性・姿勢を堅持する。

また、各学校の取り組みや活動については定期的かつ効果的な発信を行い、各学校のステークホルダーに向けた発信強化および協働事業を促進していく。

### II. 事業計画（分野別計画）

#### A. 上智大学の将来計画

##### 1. 教学計画

GL2.1	アクションプラン	2022年度事業計画
<b>（次世代社会へ向けた学部教育の再構築）</b>		
（1）建学の理念と教育精神に基づいたイエズス会人間教育を柱とし、次世代社会に対応する教育体系および組織を整備する	①専門教育と教養教育の有機的な連携	・2022年度からの新カリキュラム運用状況を踏まえた今後の課題に係る具体的検討および全学部・学科、各関連センターとの調整（関連コンテンツの制作） ・データサイエンスサービス（仮称）開設に伴う体制およびサポート内容の整備および段階的な拡充の検討
	②高度な教養教育や実践的教育および学生の主体性・体験・実践を重視した教育の実現	・表現力、交渉力、課題発見力などを醸成するために、チームワーク、調和、リーダーシップなどの資質養成を目指したアクティブラーニング科目等を含むカリキュラムの検討 ・高学年向け科目の充実に向けたカリキュラムの作成検討および関連教材、パンフレット等の作成
	③統合的な教学組織配置の検討	・2022年度は設定なし（基盤教育センター設置により完了）
<b>（次世代社会へ向けた大学院教育の再構築）</b>		
（2）建学の理念と教育精神を踏まえて次世代の大学院教育の充実を図る	①社会人向け学位プログラムの設置	・2022年度は設定なし（完了）
	②大学院研究科・専攻の収容定員見直し	・2022年度は設定なし（完了）
	③学際的な教育研究の推進	・大学院分野横断型科目「分野横断研究法：原理と技法」 2022年度秋学期新規開講
<b>（グローバルキャンパスの創成）</b>		
（3）グローバル教育を推進し、国際通用性を備えた人材を育成する	①国際通用性のある教育システムの導入	・国際的な質保証ネットワーク活動に関する継続的な情報収集 ・留学による単位互換認定方法の再検討（語学科目/語学科目以外で認定方法を分ける等） ・外国人留学生に係る各種データ分析の継続およびアンケート調査の検討・活用（SPSF等）

GL2.1	アクションプラン	2022 年度事業計画
(3) グローバル教育を推進し、国際通用性を備えた人材を育成する	② グローバル・コンピテンシー涵養に向けた環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国語による授業数の増加、維持</li> <li>・ ライティング・ラボ（仮称）開設に伴う体制およびサポート内容の整備および段階的な拡充の検討</li> <li>・ 「アカデミック日本語」の正規履修者の増加</li> </ul>
	③ 学生とプログラムのモビリティ向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外有力大学とのオンライン授業（COIL: Collaborative Online International Learning）の開発</li> <li>・ オンラインとモビリティのハイブリッド型など、留学時期・期間をより柔軟に計画できるプログラムや、オンラインを活用した海外大学との共同授業（COIL 授業）や国際共同学位プログラム（ダブルディグリー、ジョイントディグリー）など、学修成果を伴う新たな国際教育プログラムの検討と開発</li> <li>・ 国内における国際共修プログラムの有効活用</li> <li>・ 交換留学協定校の新規開拓と既存協定校との交流の活性化</li> <li>・ 産業界および国際機関との教育連携の推進</li> <li>・ コロナ禍の影響が残る中での渡航を伴う海外派遣・受入再開後の留学生の受け入れと送り出し体制の見直し</li> </ul>
	④ 2020 年度の SPSF（Sophia Program for Sustainable Futures）開設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経営学科 SPSF の開設および既設 5 学科 SPSF の運営</li> <li>・ 公式ウェブサイトおよび海外ランキングサイト等での Web 広告の展開</li> </ul>
	⑤ グローバルネットワーク・海外拠点の機能強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イエズス会等ネットワーク、コンソーシアムとの関係強化・連携促進</li> <li>・ 第 5 回日墨学長会議ホスト開催による本学レピュテーションの向上と国際的な教育・研究ネットワークの強化</li> <li>・ グローバル化推進のための拠点となる海外協定校の開拓</li> <li>・ オンライン化を踏まえた海外拠点事務所の機能強化および活動戦略に基づく適正配置とさらなる効率化</li> <li>・ ASEAN ハブセンターの現地活動をベースとした実践型プログラムの再編成および実施、オンラインを活用したインターンシッププログラムの実施</li> </ul>
<b>（入学者の質と多様性確保）</b>		
(4) 入試制度の多様化と見直しを行い、安定的に入学者を確保する	① 高大接続改革に沿った新しい入試制度の設計および実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般選抜における解答用紙処理の外注化および記述式答案のデジタル採点への移行</li> <li>・ 大学入学共通テスト利用入試 3 教科型の導入</li> <li>・ アドミッション・オフィス入試制度設計</li> </ul>
	② 志望度が高い学生を確保するための入試広報の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対面/オンラインハイブリッド型オープンキャンパスの実施（夏・春）</li> </ul>
	③ 高大連携の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学説明会の積極展開</li> <li>・ 高校訪問の積極展開</li> </ul>

2. 研究・学術交流計画

GL2.1	アクションプラン	2022 年度事業計画
(研究力の強化)		
(1) 大学全体としての研究力を強化する	① 本学の特色となる重点研究の推進および拠点化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究ブランディング事業の補助金継承事業の実施と効果検証</li> <li>・ 新設されたイスラーム地域研究所の運用の安定化</li> <li>・ 学術研究特別推進費の新たなスケジュールでの実施と効果検証</li> <li>・ 研究拠点形成を促進する制度設計の検討</li> </ul>
	② 研究成果の積極的な創出および学内外への発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際シンポジウム開催の一層の奨励（オンライン開催の奨励による開催中止リスクの軽減）</li> <li>・ オンラインを活用した情報発信の強化</li> <li>・ 個人研究成果発信奨励費出版助成の実施</li> <li>・ 情報発信プラットフォームとしての researchmap の運用定着</li> </ul>
	③ 学術情報の安定的提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電子資料の充実</li> <li>・ 利用教育の充実</li> <li>・ リポジトリ数の増加</li> </ul>
(連携の推進)		
(2) 学内外との研究交流・連携を推進する	① 学内横断的な研究のネットワーク化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究シーズ集のリニューアル</li> <li>・ 研究者交流促進機会の拡充の検討</li> </ul>
	② 官公庁や企業等との産官学連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時勢に応じたマッチングイベントの活用</li> <li>・ コーディネータ人材の拡充・継承</li> <li>・ URA (University Research Administrator) による海外機関との連携・交流促進と体制整備 (SACRU、MIRAI 等)</li> <li>・ ダイバーシティ調査分析プロジェクトの運営支援</li> </ul>
	③ 外部資金の獲得および研究活動による産業界への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 科学研究費助成事業の申請・採択件数の回復</li> <li>・ 受託研究・学外共同研究の契約件数の回復</li> <li>・ 特許出願等の手続に関する学内手続きの簡略化</li> <li>・ 研究成果からの特許出願施策の検討</li> </ul>
(研究者の養成)		
(3) 独創的かつ公正な研究を行う人材を養成する	① 若手研究者の育成・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学院生研究活動支援制度の改善・拡充結果の効果検証</li> <li>・ 博士後期課程学生への特別研究費制度の導入</li> <li>・ 学内 PD 研究活動支援制度の検討</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染防止対策下での一時的な対応の検討・実施</li> </ul>
	② 研究コンプライアンスの強化・徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全学的な研究倫理教育およびコンプライアンス教育の継続的な実施体制の堅持</li> <li>・ 研究倫理および研究公正に係る制度改正への対応</li> <li>・ みなし輸出の導入(外為法の改訂)に伴う学内安全保障貿易管理体制の再構築</li> </ul>

### 3. 学生生活支援計画

GL2.1	アクションプラン	2022 年度事業計画
<b>(学生の健康管理体制の構築)</b>		
(1) 心身両面での健康管理体制の充実を図る	①多様な学生からの相談や緊急事案に対応する環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生一次対応窓口開設</li> <li>・なんでも相談開設</li> <li>・ハラスメント相談の強化</li> <li>・ウェルネスセンターの設置による学内外学生支援組織、部署との連携強化</li> </ul>
	②学生局内の改組および学生相談室(仮称)の設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェルネスセンターの設置および検証</li> <li>・新たなスペース確保の検討</li> </ul>
<b>(奨学金制度の拡充)</b>		
(2) 奨学金制度の整備、拡充を図るとともに、奨学基金を増加する	①給付の基本方針に基づく制度設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染に対応した経済支援継続</li> <li>・博士前期課程の奨学金制度の充実</li> </ul>
<b>(キャリア教育および就職支援体制の確立)</b>		
(3) 将来の働き方を見据えたキャリア教育・就職支援および多様な学生に対応する支援のあり方を見直す	①就職活動や就業の変化に応じたキャリア支援のあり方の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生のキャリアセンター利用状況のデータおよび就職環境の変化に応じた支援体制の策定・実施</li> <li>・個別相談体制の強化</li> <li>・学生サービスの効果検証</li> </ul>
	②キャリアセンターの業務体制・プログラムの再構築	・ウィズコロナおよびポストコロナを踏まえたガイダンス・セミナーの整理と再構築
	③多様な学生への就職先の開拓および支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人留学生就職支援に関する連携強化</li> <li>・外国人留学生相談体制の強化</li> <li>・多様な学生に対する就職支援プログラムの検討</li> </ul>
<b>(社会貢献活動の支援)</b>		
(4) 共生社会の実現を目指したプログラムを実施するとともに社会貢献活動を支援する	①様々なボランティア先の展開および学生への実践の機会提供	・学外協力機関との連携による学生主体の社会貢献活動プログラムの充実
	②学外での体験教育プログラムの充実	・域学連携を軸とした SDGs への取り組み強化
<b>(学生生活の活性化)</b>		
(5) 学生交流を支援し、学生生活を活性化する	①教育寮としての企画・運営	・教育プログラムの教育効果検証と一層の充実
	②キャンパスのアメニティ・スペース、課外活動の関連施設の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパスの施設設備の改善に向けた学生意見の聴取と協働</li> <li>・キャンパスメディア「FIND SOPHIA」の充実と学生の認知度向上</li> </ul>
	③ピア・サポート等の仕組みづくりと支援の策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SSIC (Sophia Student Integration Commons)、アクティブ・コモンズにおける学生交流企画の充実</li> <li>・コロナ禍によって大学や友人との関係に不安を抱えた学生へのピア・サポートを活用した支援策の充実</li> </ul>

## B. 上智大学短期大学の将来計画

GL2.1	アクションプラン	2022 年度事業計画
1. 全体計画		
(1) 短期大学部の中・長期的な組織・教育体制の整備計画を策定する	①入学定員充足を基盤とした組織・教育体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学定員の安定的確保に向けた取組の継続</li> <li>・対面とオンライン双方を活用し、受験生イベントを増やすなど入試広報活動の強化による入学定員の確保</li> </ul>
(2) 短期大学部と上智大学との連携を強化する	①同一法人下における施策の共有と標準化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1号館1階および3階教室の机・椅子の更新</li> <li>・短期大学部1号館エレベーターリニューアル工事</li> <li>・秦野キャンパスネットワーク改修</li> <li>・ユニバーサルマナー検定の実施</li> </ul>
2. 教学計画		
(3) 教育の内部質保証を推進する	①卒業認定・学位授与の方針で示す能力の獲得により社会に貢献できる人材育成の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍における感染防止対策と教育の質の維持・向上</li> <li>・学生のコミュニケーション能力、日本語と英語で読み文章を作成する能力の向上</li> </ul>
	②教養教育の効果測定・評価、改善を行う仕組みの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必修科目「人間学Ⅰ」における教養力の測定の継続</li> </ul>
	③英語能力を強化する教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TOEIC-IP テストの年間伸び率の向上</li> </ul>
3. 学生支援		
(4) 多様化する学生の支援を推進する	①多様化する学生の将来設計に対応する確かな進路支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の希望する進路実現力に向けた施策の継続</li> <li>・進路未決定者数、休退学者数の減少に向けた施策の継続</li> <li>・対面とオンラインによるガイダンスと面談の実施</li> </ul>
4. 地域連携		
(5) 地域貢献の一層の質的向上を図る	①サービスラーニングによる地域貢献の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面とオンラインを使ったサービスラーニング関連科目、および活動の充実</li> </ul>

## C. 生涯学習の将来計画

### 1. 生涯学習のあり方の検討

上智大学における生涯学習のあり方については、生涯学習検討専門委員会の下で検討を行い、必要な施策を立案・実施する。

### 2. 実業界と大学が一体となった産学協働の学びの場の創成

実業界とともに学びの場を創生する産学協働の新しい試みとして始動した「プロフェッショナル・スタディーズ」については、2022 年度事業計画を以下のとおりとする。

- ・参画企業数の拡充と産学協働体制の強化
- ・産業界のニーズを踏まえた講座運営の充実と新規企画の実現
- ・社会人が継続的に学べる場の整備と受講生ネットワーク形成支援



D. 中高4校の将来計画

GL2.1	アクションプラン	2022 年度事業計画
1. 教育の充実		
(1) イエズス会教育の理解と浸透のためのプログラムを作成する	① ILP (Ignatian Leadership Program) の充実	【栄光学園】 ・ 各種の体験学習プログラムなどの継続実施と新規計画の検討
		【六甲学院】 ・ 六甲学院オリジナルの手帳を用いたふりかえり
		【広島学院】 ・ 毎週開催する ILP 担当者委員会の継続による、内容充実と教職員の研鑽
	② イエズス会大学・教育機関との連携強化	【栄光学園】 ・ 米国ボストンカレッジ「Ever to Excel」プログラムへの 2022 年度継続参加
		【六甲学院】 ・ 国内外のイエズス会学校との交流（オンライン含む）
		【広島学院】 ・ イエズス会教育についての理解を深めるための研修プログラム開発について、連携可能な大学等の検討
(2) 2020 年大学入試改革への対応を見据えたカリキュラムを再編成する	① 英語の 4 技能向上（特に Speaking 技能）	【六甲学院】 ・ 外部委託ネイティブ講師による授業の継続と評価の実施
		【広島学院】 ・ 中学 3 学年・高校 1 学年におけるオンライン英会話の必要性を検討
		【上智福岡】 ・ 英語科研修の継続
	② 次期学習指導要領への対応	【栄光学園】 ・ 高校 1 年での新教育課程の実施
		【六甲学院】 ・ 新学習指導要領の実施と評価
		【広島学院】 ・ 新しいカリキュラムの検討
(3) 高大連携を推進する	① 高大連携の具体策の検討と実施	【栄光学園】 ・ 上智学院として高校生が参加できる国際プログラムに上智大学と共に参加
		【六甲学院】 ・ 大阪大学による高校生向け研究プログラムの希望者受講と研究発表 ・ 東大・京大のオンライン公開講座の希望者受講
		【広島学院】 ・ 広島大学と連携する「グローバルサイエンス」への継続参加★ ・ 広島大学や東京大学等への大学見学の実施★
		【上智福岡】 ・ 中 3 の SF0 (Studies For Others) の上智大学との連携
	② 高等教育部門との連携の強化	【栄光学園】 ・ 上智大学イエズス会高等学校特別推薦制度の継続
		【六甲学院】 ・ 上智大学イエズス会高等学校特別推薦制度の活用

GL2.1	アクションプラン	2022 年度事業計画
(3) 高大連携を推進する	② 高等教育部門との連携の強化	<b>【広島学院】</b> ・ 上智大学の教員を招聘する授業や講演会の実施★ ・ 上智大学イエズス会高等学校特別推薦制度の広報、推進
		<b>【上智福岡】</b> ・ 上智大学との教育提携プログラムの継続
(4) グローバル化へ対応する	① 国際交流プログラムの充実	<b>【栄光学園】</b> ・ Ateneo de Gebu (Sacred Heart School) との生徒交流プログラムの継続実施
		<b>【六甲学院】</b> ・ 海外姉妹校とのオンラインリーダーシッププログラムへの参加
		<b>【広島学院】</b> ・ 現行のフィリピン研修の充実および新たなカンボジア研修の開始★ ・ 現地のイエズス会学校との交流を含むアメリカ研修の検討★
		<b>【上智福岡】</b> ・ カンボジア・スタディツアーと中3のオーストラリア語学研修の継続 ・ 海外姉妹校とのオンラインでの交流
(5) 少子化を見据えた入学者確保の方法を検討する	① 受験生確保の施策検討	<b>【栄光学園】</b> ・ コロナ禍における、より効果的な広報活動の検討・推進
		<b>【六甲学院】</b> ・ 1学期に説明会、オープンスクールを実施
		<b>【広島学院】</b> ・ オープンスクールや学校説明会、塾等への広報活動の継続 ・ スクールガイドや公式ウェブサイトの充実
<b>2. 生徒支援</b>		
(6) 多様な生徒に対応する支援を進める	① 多様な背景を持つ生徒の支援	<b>【栄光学園】</b> ・ スクールカウンセラー・精神科校医・本校教育相談担当・養護教諭の連携の推進継続
		<b>【六甲学院】</b> ・ 教員向けの研修会を実施
		<b>【広島学院】</b> ・ 生徒理解を深めるための校内研修会実施
		<b>【上智福岡】</b> ・ 発達特性についての研修の実施（LGBTについての研修）
	② 個々の習熟度に応じた学習サポート	<b>【栄光学園】</b> ・ 成績不振者への補習や個別指導
		<b>【六甲学院】</b> ・ 外部委託を絡めた効率的な成績不振者対策の実施
		<b>【広島学院】</b> ・ 長期休業中に実施する補習での習熟度別クラス編成 ・ 難易度の異なる長期休業中の課題の準備
		<b>【上智福岡】</b> ・ ICT 教育推進 ・ 補習、放課後指導の実施



GL2.1	アクションプラン	2022年度事業計画
(6)多様な生徒に対応する支援を進める	③自習環境の整備および充実	【広島学院】 ・生徒が校内で自習できる場所の提供やその環境整備
		【上智福岡】 ・ICT教育推進
	④経済支援体制の整備	【栄光学園】 ・新寄付制度による経済支援の充実
		【六甲学院】 ・適性・有効な奨学金支給体制およびフォローアップの検討
		【広島学院】 ・イエズス会学校に相応しい奨学金制度の強化
	3. 財務・管財部門	
(7)学習環境(校舎・校地・設備)を維持管理する	①整備維持管理計画の策定および実施	【六甲学院】 ・土砂災害警戒区域場所の養生
		【広島学院】 ・新校舎建築計画の検討 ・里道廃止の手続き
		【上智福岡】 ・旧実習農園の売却の交渉 ・特別棟の改修長期計画の実施
	②ICT (Information and Communication Technology) 環境の整備	【栄光学園】 ・授業におけるタブレット使用の方法を各教員が模索・研修
		【六甲学院】 ・用途に適した機器の導入の推進
		【広島学院】 ・新たな教務システムの決定
(8)学校生活の安全性を高める	①防災計画の策定	【広島学院】 ・行政への砂防ダムの補強陳情の継続
	②災害危険地域の把握および対応策の策定・実施	【六甲学院】 ・本校従来の危機管理体制の再整備を検討(安否確認システム導入は見合わせる)
		【広島学院】 ・危険箇所対策工事の実施(下グラウンド <sup>のりめん</sup> 法面崩落防止工事)(状況が許せば実施)
4. 人事部門		
(9)教職員採用計画に基づき適正な採用をすすめる	①年齢構成に応じた採用人事計画の策定	【栄光学園】 ・教員部門・事務部門の人員交代時期に合わせた人事計画の策定と実施
		【六甲学院】 ・若手育成の実践的プログラムの策定

GL2.1	アクションプラン	2022 年度事業計画
(9)教職員採用計画に基づき適正な採用をすすめる	①年齢構成に応じた採用 人事計画の策定	【広島学院】 ・教職員の年齢構成に基づく採用計画立案
		【上智福岡】 ・定年退職による人員補強の長期採用計画の策定
(10)管理職（校長・教頭（副校長）・事務長等）を養成する	①管理職の養成と選任規程の策定	【広島学院】 ・管理職のスムーズな交代

★国内外で実施する各種プログラムは状況により可能になれば実施

## E. 上智学院の運営基盤に関する計画

### 1. イエズス会ならびにカトリック教育の理解と浸透

GL2.1	アクションプラン	2022 年度事業計画
(1)伝統を維持・継承し、絶えず適用し、刷新するための基盤を形成する	①カトリック・イエズス会センターの充実、とくに教職員への働きかけの強化	・シンポジウム「海外につながる子供たちの学びの場を創るために」の開催 ・「聖イグナチオ年」記念行事の継続実施 ・基盤教育「キリスト教人間学」との連携 ・「リーダーシッププログラム」の企画立案実施 ・イエズス会教育の理解を深める資料作成、公式ウェブサイトのリニューアル ・イエズス会教育の理解を深める上智学院教職員対象研修の実施
	②アーカイブの充実に向けた組織の整備並びにアーカイブズの活動継続のための基盤整備としての基金の設立	・キリシタン文庫、カトリック・イエズス会センター、イエズス会ローマ本部アーカイブズ（ARSI）、イエズス会日本管区アーカイブズ、S. J. ハウスアーカイブズ等との連携強化 ・基金設立の準備
	③学院、および各学校単位でのアーカイブ資料の充実、研究の推進	・史資料収集および編纂方針の立案 ・史資料データベースの運用開始 ・学生・教職員における史資料保全意識の涵養のための授業連携やイベント等の開催 ・イエズス会ローマ本部アーカイブズ（ARSI）、イエズス会日本管区アーカイブズ、S. J. ハウスアーカイブズと連携した資料調査の実施 ・（大学）大学史編纂への取り組みの推進 ・（中高）学校単位での史資料収集および管理体制の構築

### 2. サステナビリティ推進に係る計画

教職員、学生、生徒が共に参画する、上智学院横断組織としての「上智学院サステナビリティ推進本部」の事業計画は以下の通り定める。

- ・「共生社会の実現」に向けた教育環境における課題抽出と整備対応
- ・ダイバーシティ推進に係る取り組みの促進
- ・構成員（学生、生徒、教職員）の意識醸成、意識啓発に向けた企画や研修会の実施
- ・コアリションへの参画、政策提言等を通じた自治体との関係強化、企業との共催企画実施等を通じた、国内外の諸組織との連携と協働の推進

### 3. 全体計画

GL2.1	アクションプラン	2022 年度事業計画
<b>(ガバナンス改革の推進)</b>		
(1) 上智学院における企画立案機能・迅速な意思決定を可能とする運営体制を構築・定着させる	①GL2.1/アクションプランに係る検証・提言・指示体制の構築と運用	・次期中長期計画の策定と公表
	②役員・役職位の権限明確化と関連する規程の整備	・ガバナンスコードに基づく法人運営体制点検の徹底
	③会議体・委員会の役割を踏まえた整理統合と企画立案機能の強化	・法人および各学校の経営企画戦略を担う体制の整備
<b>(教学に係る PDCA サイクルの確立)</b>		
(2) 質保証を踏まえた教学マネジメント体制を構築・定着させる	①教学部門における教育の質保証に係る PDCA サイクルの確立、およびそれに向けた体制の構築	・学修成果の可視化に係る取り組みの推進 ・質保証運営会議提案事項への対応促進
	②認証評価制度への対応を意識した、自己点検評価サイクルおよび体制の構築と運用	・全学自己点検・評価の実施 ・自己点検評価に係る業務システム運用開始 ・第三期認証評受審体制の整備
	③教学監査システムの構築	・監査室と連携した教学監査実施案の策定
<b>(リスクマネジメント)</b>		
(3) リスクマネジメントを徹底する	①学院の重要リスク選定、対策の実行・管理、検証体制の精度の向上	・学院全体のリスクマネジメントの実質化 ・重要リスクの選定、対策の実施、評価 ・進捗不振の重要リスクの対策推進
<b>(IR 機能の更なる整備)</b>		
(4) 意思決定を支援する IR (Institutional Research) 活動を充実させる	①意思決定のために必要な情報収集と管理、レポート機能の構築	・教学説明会等での、IR の分析結果の学内発信 ・データ分析ツールを活用した、レピュテーション向上のための施策策定
	②事業計画策定・検証における IR データの活用	・各種学生調査・アンケート等について、FD 活動とのさらなる連携 ・質保証運営会議の体系のなかで、点検・評価活動への、各種調査結果の利活用
	③IR 成果の学内外への情報発信強化	・統計 Statistics、事業報告書、ファクトブックのデータ項目整理および作業負担の軽減 ・ファクトブックサイトでの、調査結果の積極的な発信
<b>(ステークホルダーとの連携強化)</b>		
(5) 学院を支えるステークホルダーとの紐帯を充実させる	①卒業生に係る情報収集の強化	・統合 DB の共用体制を活かしたソフィア会との情報管理・運用ルールの徹底および学内資源としての有効活用化 ・帰国留学生の連絡先収集およびそのネットワーク構築
	②後援会および保証人との連携強化	・後援会向け新規ノベルティ開発および入会特典メニューの追加導入検討 ・オンライン化を中心とした入会・入金手続きの簡便化 ・各種催事の効果的な実施
	③地域社会への貢献強化	・近隣地域の団体や企業と連携した事業・プロジェクトの具体化と対面・オンライン双方での協力および実施

4. 組織・人事計画

GL2.1	アクションプラン	2022 年度事業計画
(教員組織のパフォーマンス向上)		
(1) 教員・教学組織のパフォーマンスを向上させる	①教員のパフォーマンス向上を実現するための教育・研究環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教学組織（学部・学科、大学院および研究所）の自律性を尊重した組織目標設定の制度設計</li> <li>・ 教員のパフォーマンス（教育・研究力）向上につながる教員個人評価改善策の実行</li> </ul>
	②大学改革の実現を推進するための教学組織の再編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上智大学の持続可能な発展に向けた学部学科、大学院および研究所にかかわる再編策の立案および決定</li> </ul>
(職員の職務遂行能力の向上)		
(2) 職員・事務組織のパフォーマンスを向上させる	①職員のパフォーマンス向上を実現するための職員人事制度の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価制度改正の趣旨を踏まえた職員の主体的・自律的な行動を促進する育成プログラムの実行と効果検証</li> <li>・ 組織開発の重点方針に基づく組織目標を達成するための SD の実行</li> <li>・ 専任職員の職層等級に見合った格付と職員の適正配置策の実行</li> </ul>
	②高度化・複雑化・専門化する業務の生産性向上を実現する仕組みの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ デジタルトランスフォーメーション（DX）を推進した、組織のあり方および職員の働き方の改革</li> <li>・ 「学院運営体制タスクフォース」検討結果を踏まえた業務見直しおよび効率化</li> <li>・ 企画立案・課題解決型業務へのシフトおよび事務組織再編にかかわる検討</li> <li>・ 部局（チームまたは担当の壁）を超えたプロジェクト型業務の推進および全学的な協業体制の継続実施</li> <li>・ ポストコロナにおける、成果を重視したライフスタイルに合わせた柔軟な働き方の効果検証</li> </ul>
(人件費支出の適正化)		
(3) 効率的な組織運営を実現し、人件費の構造改革を実現する	①人件費構造の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員人件費の適正化に向けたプランの実行</li> <li>・ 専任教員持ち時間数の削減</li> <li>・ 開講科目（受講者 10 名以下科目）の廃止</li> <li>・ 非常勤講師担当科目数の削減</li> <li>・ カリキュラムのスリム化に向けた提言</li> <li>・ 職員人件費の改善および職員の労働生産性向上策の実施（「学院運営体制タスクフォース」職務分析を通じた業務改革）</li> <li>・ 事業会社を活用したさらなる業務の外部委託化の推進</li> <li>・ DX を推進したさらなる業務改革の実行</li> </ul>
	②教学組織および事務組織の再編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上智大学の持続的な発展に向けた学部学科、大学院および研究所の再編策の立案および決定</li> <li>・ 学部学科事務室、研究所等における職員の適正配置の立案および決定</li> </ul>
(ダイバーシティの推進)		
(4) 教職員の多様性を活かし、いきいきとした組織をつくる	①人材の多様化による組織の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SDGs を勘案した多様な人材の確保</li> <li>・ ダイバーシティ&amp;インクルージョンにかかわる啓発活動の実施</li> </ul>

GL2.1	アクションプラン	2022 年度事業計画
(4)教職員の多様性を活かし、いきいきとした組織をつくる	②教職員の帰属意識を高める職場環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職協働プロジェクトによるイノベーション推進</li> <li>・若手教職員の経営参画機会の創出</li> <li>・メンタルヘルスキアのさらなる充実と組織における改善策の実行</li> </ul>
(学校間の連携)		
(5)上智学院が設置する学校間における連携を活性化させる	①人事・労務管理にかかわる課題への対応	・中等教育部門にかかわる人事・労務課題の整理と解決策の立案と実行
	②中等教育部門、高等教育部門との連携促進（交流含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中等教育事務室の機能強化（専門領域による職員の兼務）</li> <li>・中等教育部門、高等教育部門との人事交流のあり方の検討</li> </ul>

## 5. 財政計画

GL2.1	アクションプラン	2022 年度事業計画
(財源の充実)		
(1)自己財源を充実させる	①学生生徒等納付金収入の安定的確保	・学費単価改定の検討
	②資産運用収入の安定的確保	・資産運用方針の不断の検証と、高度なリスク管理に基づく資産運用収入の確保
	③財産（固定資産、知的財産）の活用による収入源の確保	・施設設備利用料収入の拡大と不動産活用による収入元確保の検討
(2)外部資金を積極的に確保する	①寄付募集活動の積極的な展開による寄付金の増収	・新規寄付者の開拓とリピーターの増加を目指した寄付依頼媒体（主に公式ウェブサイト）の刷新およびオンライン手続きの拡充
	②科研費（科学研究費助成事業）、受託研究費等外部研究費の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究支援体制の強化</li> <li>・研究者へのインセンティブが働く制度の充実</li> </ul>
	③事業会社の業務推進による収益増加と学校法人への寄付金増収	<ul style="list-style-type: none"> <li>・株式会社ソフィアキャンパスサポート（SCS）への業務委託および学院業務支援の推進</li> <li>・SCS の業務拡大と既存事業深耕支援による収益増加</li> </ul>
(限りある財源の活用)		
(3)適切な予算配分を行う	①中長期財政計画と事業評価に基づく予算配分の実施	・具体的な財務目標の設定と、予算編成方針への反映
(4)経費削減に恒常的に取り組む	①部門別及び目的別事業収支の実態把握と対応策の実施	・各部門の収支状況の把握と人事政策等の各種施策への反映
	②固定経費の削減推進	・カーボンニュートラルへの対応に伴うコスト増抑制策の検討
(特定資産の充実)		
(5)教育研究環境維持向上のために引当金を拡充する	①減価償却引当特定資産の増額	・財務目標として当該引当資産の年間積立額を設定するとともに、達成に向け諸施策を検討
(6)奨学基金を拡充する	①第3号基本金の増額	・財務目標として当該引当資産の年間積立額を設定し、達成に向け寄付金増収策の具体的検討および高額寄付者への提案を強化

## 6. 施設・設備計画

GL2.1	アクションプラン	2022 年度事業計画
(教育研究環境の向上と維持保全)		
(1)教育研究環境の向上を図る	①中長期キャンパス整備計画の策定	・ 中長期教育研究環境向上計画（第2期キャンパス整備計画）の検討
	②教育方法の多様化、研究の高度化、キャンパスのグローバル化、ユニバーサル化への対応	・ 四谷キャンパス外構整備実施（メインストリート南） ・ 真田掘グラウンド改修工事実施（実施設計と行政協議） ・ 15号館（旧共栄ビル跡地新校舎）の工事実施 ・ 2号館他改修実施計画の検討 ・ 7号館改修実施計画の検討
(2)施設・設備の維持保全を図る	①予防保全を含めた中長期施設・設備保全計画の策定	・ 予防保全を含めた中長期施設設備保全計画の策定
	②維持保全に係るコストの平準化	・ 対策の優先順位付けに基づく維持保全の実施 ・ 省エネルギー対策の実施
(施設・設備のリスク対応)		
(3)施設・設備の自然災害への対応推進によるキャンパスの安全性の向上を図る	①様々なリスクに対応した施設・設備の改修および保全	・ キャンパスの安全性向上対策の実施

## 7. ICT計画

GL2.1	アクションプラン	2022 年度事業計画
(ICT の活用)		
(1)ICTによる教育研究および学生支援をさらに高度化する	①無線 LAN をはじめとするネットワークの利便性の向上	・ 基幹ネットワークの拡充 ・ 秦野キャンパス／大阪サテライトキャンパスネットワーク改修 ・ 無線 LAN 更新・増設 ・ 有線 DHCP の更新
	②授業・学修環境の整備・拡張	・ COM/CALL 教室の方針策定 ・ 同時通訳室設備更新
(2)経営戦略策定のためのツールとして ICT をより効果的に活用する	①事務基盤システム更新と拡充	・ 統合 DB 基盤更新 ・ 統合 DB システム改修
	②業務システムの開発・更新およびクラウドサービスのさらなる活用	・ 教学支援システム「Loyola」の留学管理システム改修 ・ 採用手続きの電子化 ・ デジタル入試採点システムの導入 ・ 上智大学公式ウェブサイトリニューアル
(ICT 環境の整備)		
(3)情報セキュリティ強化のための運用・管理体制を確立する	①情報システムセキュリティポリシーに基づく、マニュアル・ガイドライン等の策定	・ 情報セキュリティ関連規程の拡充
	②情報セキュリティ監査体制の確立	・ 情報セキュリティ監査規程の策定
	③情報セキュリティ教育の継続的な実施	・ セキュリティ教育（e-Learning 教育）の実施



### Ⅲ. 2022年度予算編成の基本方針

「上智学院グランド・レイアウト2.1」に示された重要課題を推進するためには、限られた財源の最適配分（予算化）が必要です。

重要課題に基づく新たな教育研究の展開や、キャンパス整備計画（中等教育部門を含む）に基づく教育研究環境の整備改善など、財政的にインパクトのある新規課題を抱えている現状においては、最適化のために、新規プログラムに対する適否判断だけでなく、既存事業とその予算をいまいちど厳正に見直し、既得権・前例・慣習等にとらわれることなく、適正かつ公正な必要最低限の予算を編成及び執行しなければなりません。

また、学校法人の収支は均衡していることが求められ、特に、本学院においては当年度収支差額の均衡に努め、財政の健全化を図ることが喫緊かつ重要な課題です。その重要課題への方策と、教育研究充実のための予算措置という、相反するとも言える両者への効果的対応を鋭意検討し、具体的な取り組みを推進していくことを、学院全体の共通認識とします。

#### 1. 事業計画に則った予算立案と適正執行

全教職員が、学校法人上智学院の重要課題と財政状況への理解を深め、事業計画に則った適正な予算を立案し、公費を適正に執行することの重要性を強く再認識する必要があります。

予算執行にあたっては、執行金額の多寡にかかわらず、常に合规性・経済性・有効性の観点から個々の取引を厳正に行うこととします。

#### 2. 重要課題への予算の重点化

「上智学院グランド・レイアウト2.1」に示された重要課題に係る教育研究活動及び基盤整備等の諸施策に対して重点的に予算を配分します。

#### 3. 収支改善による収支均衡の実現

業務の見直しによる効率化を更に徹底し、収支の均衡に一層努めます。

また、各事業の収支を的確に把握し、不採算事業への具体的対応を引き続き検討することとし、収入増加策及び支出削減策を金額の多寡にかかわらず推進することとします。

#### 4. 経費削減と最小予算による最大効果の発揮

教育・研究活動に係る経費は、新たな取組を積極的に推進するため、既存事業の経費削減を「聖域」なく検討・実施することとします。

また、限られた予算の効果的な使用と恒常的経費の削減にさらに努め、より少ない予算でより大きな効果を得られるよう創意工夫することとします。

#### 5. 人件費支出の適正化

事業の「選択」と「集中」を促進し、業務の合理化・効率化・外部委託化等により、人件費支出の適正化を図ります。

#### 6. 学費収入の確保

文部科学省の入学定員管理の厳格化や18歳人口減少の顕在化等の厳しい状況の中、財政的根幹を成す学費収入を如何にして安定的に確保するのか、これを重要課題として取り組むこととします。

#### 7. 外部資金の積極的な獲得

外部資金の獲得を積極的に進め、新たな取組みを含めた諸活動の財源については、自ら確保することを原則とします。



#### 8. 学内研究費制度の実績評価と最適化

研究活動にかかるP D C Aサイクルの一環において、研究評価委員会による評価結果等を踏まえ、創出された研究成果の発信状況や研究費制度の活用状況等に鑑みた制度の見直し及び運用改善を図ります。研究拠点の形成・確立とともに、研究成果発信の促進及び若手研究者の育成支援を重要課題として認識し、研究費制度の最適化をさらに進めていきます。

#### 9. 部門別及び目的別収支管理による選択と集中の推進

安定的な財政基盤を構築し、「上智学院グラウンド・レイアウト2.1」に示されている重要課題を円滑に推進するためには、部門別及び目的別の収支状況を正確に把握し、評価・見直しを常に行うことにより、選択と集中を進めることが不可欠です。そのため、今後も部門別・目的別予算申請を実施します。

## 2022年度事業活動収支予算（学院）

（単位：千円）

		科 目	2022年度予算
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	18,677,190
		手数料	985,438
		寄付金	492,718
		経常費等補助金	4,105,542
		付随事業収入	926,099
		雑収入	1,090,853
		教育活動収入計	26,277,840
		支事業の活動の部	人件費
	教育研究経費		9,741,375
	管理経費		1,705,843
	教育活動支出計		27,025,090
教育活動収支差額			△ 747,250
教育活動外収支	収事業の活動の部	受取利息・配当金	796,288
		その他の教育活動外収入	450,000
		教育活動外収入計	1,246,288
	支事業の活動の部	借入金等利息	98,386
		その他の教育活動外支出	0
		教育活動外支出計	98,386
	教育活動外収支差額		
経常収支差額			400,652
特別収支	収事業の活動の部	資産売却差額	0
		その他の特別収入（施設設備指定分及び現物寄付含む）	138,008
		特別収入計	138,008
	支事業の活動の部	資産処分差額	282,766
		その他の特別支出	0
		特別支出計	282,766
特別収支差額			△ 144,758
【予備費】			125,600
基本金組入前当年度収支差額			130,294
基本金組入額			△ 1,862,206
当年度収支差額			△ 1,731,912
前年度繰越収支差額			△ 10,309,487
翌年度繰越収支差額			△ 12,041,399
(参考)			
事業活動収入計			27,662,136
事業活動支出計			27,531,842
事業活動収支差額			130,294